



TOKYO  
METROPOLITAN  
UNIVERSITY

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY Master of Finance

# 東京都立大学 大学院

旧 首都大学東京

ビジネススクール

## ファイナンスプログラム

### 2021

東京都立大学大学院 経営学研究科

経営学専攻 博士前期課程

修士 [ファイナンス]

首都大学東京は、2020年4月1日に大学名称を東京都立大学に変更しました。

# 高度金融専門人材を 実務の世界へ

## 1

### 丸の内で平日夜間と土曜日の少人数制教育

金融機関の集積する丸の内地区で、少人数制による密度の高い教育を平日夜間と土曜日に行います。単なる座学の大学院ではありません。ゼミやケーススタディなど実践的な教育を配当し、修士論文執筆のための研究指導も行います。

## 2

### 深く学べる専門性の高い講義と、幅広い関連分野の講義

投資運用、デリバティブ、金融リスク分野について深く学ぶことができます。同時に、数値計算、データサイエンスなどの金融業務に関連する幅広い分野を体系的に学べます。

## 3

### 入試は書類選考と面接

入試は年2回(9月と2月)。入学はいずれも翌4月です。入学選抜は書類選考(研究計画書など)と面接(口頭試問)により行います。

## Contents

- 03 MF Program Director
- 04 Mission — ミッション —
- 04 Characteristics — 特徴 —
- 05 Faculty Members — 主な教員 —
- 08 Curriculum — カリキュラム —
- 09 Courses — 2021 年度開講科目 (予定) —
- 10 Facilities — 教育環境 —
- 12 From Current Students — 在校生の声 —
- 13 From Alumnae and Alumni — 修了生の声 —
- 14 Research Center for Quantitative Finance 金融工学研究センター
- 15 MBA Program — 経営学プログラム —
- 15 MEc Program — 経済学プログラム —

# MF Program Director



Yukio Muroguchi

室町 幸雄

東京都立大学大学院  
経営学研究科 教授  
ファイナンスプログラム  
ディレクター

**我**が国の金融機関がグローバルに飛躍していくためには、これまで以上に高度なファイナンスの知識をもち、実践していく人材が求められています。

金融実務の最先端では、自らのアイデアにより、表現力の高い数理モデルや投資戦略の構築、適切なリスク管理技術の開発、新しい金融商品の開発やその定量的な評価・分析、バックテストなどを柔軟に行うことができる高度金融専門人材が必要とされています。実際に海外の国際金融都市では、ファイナンスの高度な専門教育を受けた学位を持つ人材が金融の最先端で実務を行っています。最近では、データ蓄積量の飛躍的な増加により、データをして語らしめるという動きが活発化していますが、その中で意味のある成果を出していくためにもファイナンスの適切な知識が必要であることは言うまでもありません。

こうした高度なファイナンスの知識と実践能力を持つ人材を養成する大学院として開設された本プログラムでは、少人数を対象に教員が時間をかけて指導する体制を構築しています。少人数制により、通常のいわゆる立ち講義は互いの顔がよく見える状態で進められます。また、ゼミ(ファイナンス演習)やケーススタディによる実践的な教育(ファイナンス考究)、実務家や実務経験のある教員による講義やディスカッションなどを効果的に配当し、さら

に修士論文の執筆を義務付けることで、習得した知識を実務の現場で実践できるようになるための経験を効率的に積めるように工夫されています。

研究指導はマンツーマン、あるいはそれ以上の濃密さで行われます。一つ一つの課題に対する知識や技術の使い方を教員とともに考えていくことで、プログラム修了後、実際の金融機関の中でも使える実践的な問題解決能力を養っていきます。講義は平日夜間および土曜日に開講します。科目は分野ごとに基礎的科目から応用的科目まで順序立てて配置し、また、関連する分野の科目も広く配置しています。興味のある特定分野を深く学んでいただいてその分野のプロになるだけでなく、関連分野の基礎知識も同時に習得することで、修了後に金融機関の中でプロジェクトのコアとなって活動していける幅広い視野を持つ人材を育てていきます。また、経営学プログラム(MBA)及び経済学プログラム(MEc)の講義も履修できるので、ファイナンスのプロとしての知識と技術を持ち、かつ、幅広いビジネス感覚を持つ高度金融専門人材を養成していきます。

国際金融都市・  
東京の実現

都は、2019年12月、「『未来の東京』戦略ビジョン」を策定しました。この戦略ビジョンでは、2040年代に目指す東京の姿「ビジョン」及びその実現のために2030年に向けて取り組むべき「戦略」が示されています。この戦略を推進する役割を担う「推進プロジェクト」を全庁を挙げて取り組むことで政策を練り上げ「長期戦略」を策定することとしています。

この「推進プロジェクト」の一つに「『国際金融都市・東京』実現プロジェクト」が掲げられており、資産運用会社とフィンテック企業を中心とした金融系外国企業の誘致、東京版ESGファンド及びソーシャル・エンジェル・ファンド(仮称)の推進、さらにはあらゆるプレーヤーへの国内外の運用資金からの安定的な資金供給などを通じて、企業の円滑な資金調達や社会的課題解決に資する金融サービスを生み出すアジアの金融ハブとしての地位を確立するとしています。

東京都立大学においても、ファイナンスプログラム等を展開し、ESG投資の普及をはじめとする「国際金融都市・東京」の持続的・中長期的な成長の担い手となる人材を育成・輩出していくことが求められています。

# Mission

## — ミッション —

2016年4月、大学院社会科学研究科経営学専攻(当時)。2018年4月に現在の経営学研究科経営学専攻に改組)は東京都の成長戦略の一環として、グローバルに活躍できる高度金融専門人材を養成するために修士(ファイナンス、Master of Finance)プログラム(略称：MFプログラム)を開設しました。

最先端の金融実務とアカデミクスは密接に関係しているため、欧米先進国では産官学が協調した高度な金融専門人材の養成が大学院レベルで行われているのが実情です。我が国の金融機関が国際的フィールドで輝きを放ち、東京都がロンドンやニューヨークと並ぶ国際金融都市の一角を占めるためには、こうした高度金融専門人材の養成が必要です。MFプログラムは、我が国の金

融ビジネスの中心に位置する丸の内地区において、国際的水準の教授陣による最先端のカリキュラムを提供し、国際金融都市のアカデミックな拠点を形成していくことを通して、実務で求められる高度金融専門人材を養成していきます。

MFプログラムの開設から既に4年経ちましたが、この間にも世界的な金融実務の潮流も実務家のニーズも変化し続けています。本プログラムは、これまでの基本方針を維持しつつ、新たな変化にも柔軟に対応して、金融機関の実務家の幅広いニーズに応えていきます。

# Characteristics

## — 特徴 —

### グローバルに活躍する金融専門人材の養成

金融機関等での勤務経験がある実務家や、金融機関の投資運用部門への就職を希望する四年制大学卒業生を対象に、世界的な金融都市の中で中核となって活躍できる金融専門人材を養成します。

### 少人数の優秀な人材を対象にした密度の高い教育

「投資運用」「デリバティブ」「金融リスク」「金融経済学」分野を中心的なオブジェクトとして基礎から応用に至る科目を取り揃え、かつ、深く関連する「数学」「数値計算」「統計学・データサイエンス」分野の科目を効率的に配置したカリキュラムにより、ファイナンスの知識を体系的に習得できるようにしています。

本プログラムは単なる座学の大学院ではありません。ゼミ(ファイナンス演習)とケーススタディによる実践的な教育(ファイナンス考究)を必修とし、実務家教員による実践的な授業科目も提供します。

修士論文の執筆も義務付けることで、獲得した知識と技術を商品開発などの実務の現場に繋げるための経験を積むことができます。各分野の理論に精通した教員と実務経験を持つ教員が、少人数を対象に時間をかけて指導できる体制を構築しています。

### 金融ビジネスの中心、丸の内地区で 平日夜間と土曜日の開講

金融機関の方々にとって利便性の高い丸の内のサテライトキャンパスで、平日夜間と土曜日に開講しています。

### 国内外の実務とアカデミックが交流する研究拠点

併設する金融工学研究センターでは、最先端の研究を進める海外の研究者を招聘して英語のセミナーや講義を適宜開催しています。また、所属する教員自身が最先端のテーマの研究を行い、その成果を講義に反映させるように努めています。

国際ワークショップや公開シンポジウムなどを開催し、研究成果の発信や議論の場を設けています。また、研究セミナーなどを通して国内の公的機関や民間金融機関の実務家と頻繁に交流し、国際金融都市・東京の実現に資するべく、学術的な最先端研究拠点の形成を図っています。

# Faculty Members

— 主な教員 — 原則として、主査は専任教員の教授・准教授の中から決まります。

## Takashi Asano



教授  
浅野 敬志

**担当科目**  
企業価値論

**経歴**

慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程単位取得退学(博士(商学))。首都大学東京大学院社会科学部准教授、日本銀行金融研究所客員研究員、カリフォルニア大学バークレー校客員研究員などを経て、現職

**研究教育内容**

研究テーマは会計・統合報告と資本市場です。IFRS(国際財務報告基準)、企業開示制度改革、ガバナンス改革の効果・影響を、資本市場と企業経営の視点から実証的に研究しています。

**主要業績**

浅野敬志『会計情報と資本市場:変容の分析と影響』中央経済社(2018), Adachi, T., Asano, T., and Okuda, T., "Simultaneous Estimation of Cost of Capital and Expected Earnings of Individual Firms with the Residual Income Model," Monetary and Economic Studies, 34, 1-38, (2016)

## Takanori Adachi



教授  
足立 高德

**担当科目**  
確率解析、上級確率解析、アルゴリズム取引

**経歴**

東京工業大学大学院理工学研究科修了(理学修士)、一橋大学大学院国際企業戦略研究科修了(博士(経営))、Morgan Stanley & Co.(ニューヨーク本社)、立命館大学理工学部客員教授などを経て、現職

**研究教育内容**

圏論的確率論のファイナンスへの応用、特に金融リスク尺度や確率制御を主に研究しています。またアルゴリズム取引の理論や実際について、機械学習の応用も含めて研究しています。

**主要業績**

足立高德『アルゴリズム取引』朝倉書店(2018)、足立高德『C++入門』CQ出版(1988)、足立高德(共訳)『注解C++リファレンス・マニュアル』トッパン(1992)、足立高德(訳)『プログラミング言語AWK』トッパン(1989)

## Tomonori Uchiyama



教授  
内山 朋規

**担当科目**  
ポートフォリオ理論、実証ファイナンス

**経歴**

京都大学大学院経済学研究科修了(博士(経済学))、野村証券金融工学研究センター、米国UCLAアンダーソンスクール客員研究員などを経て、現職

**研究教育内容**

専門分野は資産価格論(アセットプライシング)や投資運用理論です。金融市場における様々な資産を対象に、実証と理論の両面から、価格は如何に形成されているのか、如何に投資するべきかに関する研究を行っています。

**主要業績**

Iwasawa, S., and T. Uchiyama(2014) "The Beta Anomaly in the Japanese Equity Market and Investor Behavior," International Review of Finance 14(1), 53-73, 内山朋規他(2017)『国内債券アクティブ運用のパフォーマンスとスマートベータ戦略』、『証券アナリストジャーナル』, 55(2), 69-80(証券アナリストジャーナル賞受賞)

## Takashi Shibata



教授  
芝田 隆志

**担当科目**  
コーポレートファイナンス

**経歴**

横浜国立大学国際社会科学部専任講師、京都大学経済学研究科助教授を経て、現職

**研究教育内容**

専門分野はコーポレートファイナンスです。特に、オプション理論を用いた投資プロジェクト評価モデル、企業の負債評価モデル、などを中心に研究を行っております。

**主要業績**

Shibata, T. and Nishihara, M., "Investment Timing Reversibility, and Financing Constraints," Journal of Corporate Finance, 48, 771-796, (2018)

(2020年4月時点の予定です。今後の変更もありえます)

Kohta Takehara



准教授  
竹原 浩太

**担当科目**

クレジットデリバティブ、オプション理論、上級オプション理論

**経歴**

東京大学大学院経済学研究科修了(博士(経済学))。日本学術振興会特別研究員DC2、筑波大学システム情報系社会工学域助教を経て、現職

**研究教育内容**

デリバティブの価格評価やリスクヘッジに関する研究、特に実務で見られるような、価格やリスク量に対する解が得られない一般的なケースの解析を中心に研究しています。

**主要業績**

Ando, G., Takehara, K. and Kobayashi, M. U., "Time-delayed feedback control of diffusion in random walkers," Phys. Rev. E 96, 012148-012153, (2017), Takehara, K., Toda, M. and Takahashi, A., "A General Computation Scheme for a High-Order Asymptotic Expansion Method," International Journal of Theoretical and Applied Finance, 15-6, 903-927, (2012), Takahashi, A. and Takehara, K., "A Hybrid Asymptotic Expansion Scheme: an Application to Long-term Currency Options," International Journal of Theoretical and Applied Finance, 13-8, 1179-1221 (2010)

Yukio Muromachi



教授  
室町 幸雄

**担当科目**

期間構造モデル、信用リスク管理

**経歴**

東京大学大学院理学系研究科修了(理学博士(地球物理学))、京都大学大学院経済学研究科修了(博士(経済学))。富士総合研究所研究開発部、ニッセイ基礎研究所金融研究部門主任研究員を経て、現職

**研究教育内容**

金融リスクの計測・管理、及びデリバティブや証券化商品の価格付けに関する研究、特に市場・信用リスクの計測・評価を中心に研究を行っています。

**主要業績**

室町幸雄(編著)『金融リスクモデリング -理論と重要課題へのアプローチ』朝倉書店(2014)、室町幸雄『信用リスク計測とCDOの価格付け』朝倉書店(2007)

Kyoko Yagi



准教授  
八木 恭子

**担当科目**

プログラミング基礎、金融数値解法、シミュレーション

**経歴**

南山大学大学院数理情報研究科修了(博士(数理情報学))。東京大学金融教育研究センター特任研究員、秋田県立大学システム科学技術学部助教を経て、現職

**研究教育内容**

コンピューショナルファイナンス、および金融工学のコーポレートファイナンスへの応用を中心に研究を行っています。

**主要業績**

八木恭子・澤木勝茂『証券投資理論』ミネルヴァ書房(2018), Nishide, K. and Yagi, K., "Investment under Regime Uncertainty: Impact of Competition and Preemption," International Journal of Industrial Organization, 45, 47-58, (2016)

Toshinao Yoshiba



特任教授  
吉羽 要直

**担当科目**

金融リスク管理概論、マーケットリスク管理

**経歴**

東京大学修士(工学)、総合研究大学院大学博士(統計科学)。日本銀行金融研究所ファイナンス研究グループ長などを経て、日本銀行金融機構局企画役。特任教授として在任。

**研究教育内容**

金融リスク管理に関する基礎的・実務的研究。計量ファイナンス、統計分析、金融時系列、データの依存構造に関する基礎的・実務的研究など。

**主要業績**

Yoshiba, T., "Maximum Likelihood Estimation of Skew-t Copulas with Its Applications to Stock Returns," Journal of Statistical Computation and Simulations, 88(13), 2489-2506, (2018), 吉羽要直, 接合関数を用いた市場リスク合算と金融実務への応用, 日本統計学会誌, 45(2), 329-352, (2016), Yamai, Y. and Yoshiba, T., "Value-at-Risk versus Expected Shortfall: A Practical Perspective," Journal of Banking and Finance, 29(4), 997-1005, (2005), 他

## Yasuyuki Kato



特任教授  
加藤 康之

**担当科目**  
資産運用論

**経歴**

東京工業大学修士(理学)、京都大学博士(経済学)。野村総合研究所、野村証券(株)金融工学研究センター長、同社執行役を経て京都大学教授(現在客員教授)。他にGPIF経営委員、お金のデザインアドバイザーなど兼務

**研究教育内容**

投資理論、金融工学、AIおよびその実務への応用を研究しています

**主要業績**

加藤康之共著 "The Emergence of ETFs in Asia-Pacific", Springer (2019)、加藤康之編著「ESG投資の研究－理論と実践の最前線」一灯舎(2018)、加藤康之著「高齢化時代の資産運用－キャッシュフローの管理と機能的アプローチ」一灯舎(2015)

## Takaki Hayashi



特任教授  
林 高樹

**担当科目**  
金融データサイエンス、金融時系列解析

**経歴**

シカゴ大学博士課程修了(Ph.D.)。日本興業銀行勤務、コロンビア大学統計学部助教授を経て、現在、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授

**研究教育内容**

計量ファイナンスや金融計量経済学分野の研究を行なっています。

**主要業績**

林高樹・佐藤彰洋「金融市場の高頻度データ分析－データ処理・モデリング・実証分析」朝倉書店(2016)、Hayashi, T. and Yoshida, N., "Nonsynchronous Covariation Process and Limit Theorems," Stochastic Processes and their Applications 121-10, 2416-2454, (2011). Hayashi, T. and Mykland, P.A. "Evaluating Hedging Errors: An Asymptotic Approach," Mathematical Finance, 15(2), 309-343, (2005)

## Chiaki Hara



特任教授  
原 千秋

**担当科目**  
金融経済学、ファイナンス特別講義(証券市場の均衡分析)

**経歴**

ハーバード大学大学院修了(Ph.D.)。University College London、University of Cambridgeを経て、現在、京都大学経済研究所教授

**研究教育内容**

ミクロ経済学や一般均衡理論の分析手法を使って、最適ポートフォリオや資産価格の研究を進めています。

**主要業績**

Hara, C., Huang, J. and Kuzmics, C., "Effects of Background Risks on Cautiousness with an Application to a Portfolio Choice Problem," Journal of Economic Theory, 146, pp.346-358, (2011), Hara, C., "Heterogeneous Impatience in a Continuous-time Model," Mathematics and Financial Economics, 2, 129-149, (2009)

他の講義担当教員に関してはシラバス等をご覧ください。

# Curriculum

－ カリキュラム －

## 平日夜間

5限 18:20－19:50

6限 20:00－21:30

## 土曜日昼間

1限 10:30－12:00

2限 13:00－14:30

3限 14:40－16:10

4限 16:20－17:50

- ◇主に平日夜間及び土曜日に授業を行います。
- ◇M1年次には、集中的なスクーリング学習によりファイナンスとそれに  
関連する知識を体系的に習得します。ファイナンス演習(ゼミ)では研究  
活動への導入も行います。
- ◇M2年次には、ファイナンス考究(ケーススタディ)や研究指導などを中  
心とした手厚い個別指導を行います。
- ◇経営学プログラム(MBA)および経済学プログラム(MEC)の授業も履修  
できます。
- ◇外国人研究者・実務家による先端的な内容の講義を英語で受けることが  
できます。
- ◇標準修業年限2年の中で、基礎科目から12単位以上、合計30単位以上(1  
科目2単位)を取得して、ファイナンス演習(2単位)・ファイナンス考究  
(2単位)・研究指導(4単位)を履修し、修士論文の審査に合格すること  
で修士(ファイナンス)(Master of Finance)の学位が授与されます。  
(今年度中に上記のように改定する予定です。正確な修了要件は入学時  
のシラバス等でご確認ください。)



東京都立大学大学院経営学研究科ファイナンスプログラム(MF)は、CFA協会との提携のもと、CFA協会 University Affiliation Program(大学提携プログラム)に参加しています。MFカリキュラムの実践的な専門性とCFA試験を目指す学生に適したものであることが認められたものです。MFから選考されたMFの在学学生は、CFA協会資格試験受験のためのScholarship(奨学金)を受けることができます。

# COURSES

— 2021年度開講科目(予定) —

## OBJECTS

### 投資運用

- 基礎**
- ポートフォリオ理論
  - 資産運用論

- 応用**
- 実証ファイナンス
  - 債券投資とALM

### デリバティブ

- 基礎**
- オプション理論
  - 期間構造モデル

- 応用**
- 上級オプション理論
  - クレジットデリバティブ
  - ファイナンス特別講義 (Bloomberg を活用した定量分析)

### リスク管理

- 基礎**
- 金融リスク管理概論

- 応用**
- 市場リスク管理
  - 信用リスク管理

### 金融経済学

- 基礎**
- 金融経済学
  - 企業価値論
  - コーポレートファイナンス理論

- 応用**
- オプション理論とコーポレートファイナンス
  - ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)

## METHODS

### 数学

- 入門**
- ファイナンス特別講義 (ファイナンス数学)

- 基礎**
- 確率解析 I
  - 確率解析 II

- 応用**
- 金融における最適化

### 数値計算

- 入門**
- プログラミング基礎

- 基礎**
- シミュレーション
  - 金融数値解法

### 統計学・データサイエンス

- 基礎**
- 金融データサイエンス

- 応用**
- 金融時系列解析
  - アルゴリズム取引
  - 経営数理
  - ファイナンス特別講義 (機械学習)

- ファイナンス特別講義
- 金融工学特別講義 (英語)
- ファイナンス演習 (ゼミ)
- ファイナンス考究 (ケーススタディ)
- 研究指導 (修士論文指導)

その他の科目も開講しています。

# Facilities

— 教育環境 —



効果的な学習を支援する  
充実した施設

金融の拠点である丸の内(丸の内永楽ビルディング)にサテライトキャンパスを開設し、セミナー等も開催可能な教室、PC教室、学生ラウンジ(PC付き自習スペース)、学生談話室などを完備し、さまざまな金融データも活用できます。



PC教室の設置と  
データベース

定評のある統計解析・数式処理およびデータマイニングのソフトを揃えたPCが準備されており、講義や自習に活用できます。また、Bloomberg、DATASTREAM、日経NEEDS、QUICK FactSet、QUICK Workstationなどの標準的なデータベースも利用可能です。





### 豊富なオンラインジャーナルや書籍

各講義に用いられるテキスト・参考文献を中心とした多くの和洋専門書が、自習スペースで閲覧可能です。大学で各出版社と包括契約しているジャーナルのほか、本プログラムで独自に契約したさまざまなファイナンス関連のジャーナルもオンラインで利用可能です。本学南大沢キャンパスおよび他大学所蔵の文献についても、ビジネススクールの事務室を通じて、貸出申し込みを行うことができます。膨大な学術文献を検索、閲覧、ダウンロードして研究を進めることができます。



## 藤澤 一貴 | 信金中央金庫 市場営業部勤務

### >>>入学の動機を教えてください。

私は、これまで金利スワップや金利オプションといった金利デリバティブのフロント・ミドル業務中心に携わってきました。これら金利デリバティブは大別して、プレーンバニラといわれる単純な仕組みのものとエキゾチックといわれる複雑な仕組みのものに分類されますが、後者のエキゾチックデリバティブについては、プレーンバニラのように容易に価格付けを行うのは難しく、エキゾチックデリバティブの価格付けにおいては金利モデル、数値計算、プログラミング等のある程度の知識が必要になってきます。しかし、自分にはこれらの知識が不足しており、これらの知識を高めるには社会人大学院に入学し体系的に学ぶのが効率的であると考えました。社会人大学院の中でも、本学は他大学院に比してデリバティブやプログラミングに関する講義も多く、それらに精通されている教授陣の方も多いため、本学への入学を決めました。

### >>>入学して思うことをお聞かせください。

入学前にイメージしていたとおり、本学に入学したのは正解だったと思います。その理由としては、2点ほどあります。

1点目は、デリバティブやプログラミングの講義が充実しているという点です。1年目の前期は、確率解析等の金融工学の基本となる分野について身に着けることができ、後期からは各自が専門としたい分野についての講義を重点的に学んでいくことができます。このように、基本的な分野から始めて、自分が専門としたい分野を1年間で集中的に学ぶことができます。これらの専門分野については、ポートフォリオ理論、リスク管理等のものが用意されていますが特に、自分の場合デリバ

ティブとプログラミングについて、重点的に学びたいと考えていました。デリバティブについては基本的なオプション理論、金利モデル、クレジットデリバティブ、上級オプション理論という風にデリバティブの分野ごとに講義が用意されており、ここまで分野ごとに細分化されて講義が用意されているのは、本学だけだと思います。また、プログラミングについても、複数の講義が用意されており、非常に充実していると思います。

2点目は、少人数教育という点です。本学は、他大学院に比して学生数が少ないため、教授陣と学生との距離が近く、綿密な指導を受けられます。例えば、通常のゼミに加えて個別のゼミを行っていただけるなど、他大学ではできないようなことも、柔軟に対応していただくことができます。また、少人数であるため授業中も質問しやすい雰囲気であり、自分の疑問点をその場で解決しやすいという点も挙げられます。

### >>>これから入学を検討している方へメッセージをお願いします。

社会人の方であれば、基本的に日中は仕事を行いつつ、夜間に大学院に通学するという形になるかと思います。そのため、講義の復習・予習や研究活動は、平日の授業後や休日に行うことになることから、プライベートな時間は削らざるを得ないということになるかと思います。ですので、相応の時間的な犠牲を払う必要がありますが、それにより得られる知識は他の手段では得難いものであり、自分の知識レベルを大幅に上げることができます。仕事と大学院の両立は大変であるとは思いますが、自身の知識レベルの向上を図りたい方は是非本学への入学を検討されてみてはいかがでしょうか。

## 龍野 剛慶 | 日本生命保険相互会社 資金証券部勤務

### >>>入学の動機を教えてください。

ファイナンスプログラムに入学した動機は大きく三点あります。一つ目は、充実した研究・教育環境の下で、ファイナンスのみならず、財務戦略や経営戦略などの企業経営、ファイナンスに関連する数学、統計、データサイエンスなど多岐に渡る分野を体系的に学ぶことができる点です。実務を通じて漠然と理解していることや疑問に感じていることを講義を通じて理解を深め実務へ応用することを目指したからです。二つ目は、最先端の研究で活躍される先生方や多様な学生との講義、ディスカッションを通じて、自身のビジネスパーソンとしての視野拡大と対話力の向上を図ることができる点です。ファイナンスプログラムでは、単なる座学だけではなくゼミやケーススタディによる実践的な教育が多数提供されているからです。三つ目は、これまでの職務を継続しつつ通学し学ぶことができる点です。職場から近いことで継続的に通学ができ、平日夜間および土曜日に充実したカリキュラムが提供されているため、仕事と両立して学び研究できる絶好の機会と強く思いました。

### >>>入学して思うことをお聞かせください。

私は体系的に幅広く学ぶため1年次に提供される全てのカリキュラムを受講しましたが、どの講義の先生方も納得がいくまで丁寧に指導していただき、金融実務家としての視野と知識が大きく広がったと感じています。学生のバックグラウンドに応じて指導して頂けるので、基礎から学ぶことが可能です。先生方と学生の距離が近く、講義の時間帯以外でもフラットに講義内容や研究に

ついて相談させて頂いています。講義は少人数制のため個々人の発言機会が多く、理解に辿り着くまで徹底的に議論、指導して頂いています。講義内容と異なる分野の相談をした際にも関連書籍や論文、先行研究を紹介して下さり、効率よく学ぶことができます。ファイナンスプログラムは学生の数以上の教員方が在籍されているので、ゼミ等では幅広い観点からアドバイスを頂くことができ、非常に密度の濃い講義を提供して頂いていると感じています。

### >>>これから入学を検討している方へメッセージをお願いします。

ファイナンスプログラムの教員方は、実務の最前線で活躍された教員方も多く実務で活用することを意識したカリキュラムと講義内容であると感じています。理論と実務の関係を理解するにつれ好奇心が駆り立てられ、更なる学びに向けたモチベーションに繋がっています。カリキュラム自体も特定の講義に特化して学ぶことも選択可能です。幅広く体系的に学びたい場合は毎日講義を受講することも可能です。いずれにしても高いレベルの講義内容を理解するのは簡単なことではないですが、与えられた課題や課題取組のプレゼン、関連書籍や論文等の精読を通じて金融実務家として成長していると実感しております。ファイナンスプログラムには多様な教員のサポートを受けられる充実した環境があるので、ファイナンス理論を武器とし、高いレベルで金融実務家として活躍していくことを目指されている方にとっては最適なビジネススクールであると思います。

# From Alumnæ and Alumni

— 修了生の声 —

高松 慎矢 | 2018 年度修了 株式会社りそな銀行 リスク統括部勤務

## >>>入学の動機を教えてください。

私はこれまで、現在所属する部署で信用リスク計測モデルの数値検証やデリバティブ商品の価格検証を行う業務に携わってきました。そこではファイナンス理論や確率論・統計学等の数学の幅広い知識が必要とされます。業務で必要な部分について、都度参考書や論文を読んできましたが、知識が断片的で、新たな課題に対する応用力が不足している点に壁を感じていました。そこで、これまで学んできた事項を含め、改めて基礎の部分から、ファイナンス理論や数学の知識を体系的に学び、今使っているリスク計量化モデルやプライシングモデルが、ファイナンス理論の中でどういう位置づけなのか理解したい、最新の研究動向に触れ、自身の業務を俯瞰したいという思いが高まりました。

本プログラムは他のビジネススクールよりもファイナンス理論や数学に特化しており、私を感じていた壁を突き破るためうってつけだと考え、本プログラムへの入学を決めました。

## >>>入学して思うことをお聞かせください。

本プログラムは、本学のビジネススクールの中でも特に少人数態勢をとっています。講義は数名で受けているため、講義中でも質問や議論がごく自然に行われています。また、授業中に理解できなかった点は、授業後納得いくまで教えて頂くことができ、消化不良のまま進んでしまうということがありません。特に、確率論など、その概念を捉えることが難しい分野について、このように少人数制で手厚い指導を受けることができるのは、本学ならではの大きなメリットであると感じています。

ファイナンス演習では、教授陣全員を前にして論文精読や実証分析の結果を90分かけて発表するという場が設けられています。教授陣全員を前にして発表するというのは緊張感

がありますし、発表内容について誤った理解をしている点、検討が足りない点を指摘されるというのは楽しいことではありませんが、幅広い観点からアドバイスを頂くことができ、得るものが多く非常に密度の濃い演習となっています。

本プログラムは、講義後に課題が出題される科目が多く、平日の夜や土日に課題に取り組むことになります。日中講義を受けながら夜や土日に課題をこなしていく生活はかなり大変ですが、課題をこなしていくことで知識が自分のものになっていく実感があります。また、課題は自由度が高いものが多く、自身の業務内容や興味に応じ、自ら考えモデルを構築する訓練をすることができます。例えば、「自由にテーマを設定し、金融時系列モデルを構築せよ」という金融時系列解析の課題に対し、倒産件数の時系列モデルの構築というテーマを設定し、データの取り扱い、モデルの選択、構築したモデルの評価といった一連のプロセスについて自ら考え、モデルを構築しました。

## >>>これから入学を検討している方へメッセージをお願いします。

本プログラムは、実務で活用することを意識したプログラムであると感じています。実務の最前線で活躍されている方から、理論が実際にどのように応用されているかについて学ぶことも可能です。金融機関に勤務された経験をお持ちの教授の方もいらっしゃる、最先端の理論を、実務での活用を意識しながら知識をつけることができます。

講義についていくのは大変ですし、課題に追われる毎日になるとは思いますが、ファイナンス理論を武器とし、高いレベルで金融の実務家として活躍していくことを目指されている方にとって、本学は最適な場所であると思います。

竹田 健人 | 2018 年度修了 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 運用企画部 運用企画チーム勤務

## >>>入学の動機を教えてください。

私は学部卒業後、社会人を経ずにこのプログラムへ入学しました。学部時代から数理ファイナンスを専攻しており、将来は金融機関の運用部門やリスク管理部門への就職を志していました。そのためにも大学院への進学を決めていましたが、当初はそのまま同じ研究室の修士課程へ進もうと考えていました。

しかしながら、修士の2年間のほとんどを研究に費やすよりも、ファイナンス理論のより広い範囲を基礎から学びたいという思いが強くなりました。そんな私にとって、ファイナンス・金融工学を体系的に学ぶことのできるこのプログラムはまさに理想的なものであったため、入学を決意しました。

## >>>入学して思うことをお聞かせください。

まず、入学して驚いたことは先生方のサポートが充実していることです。特任の方を含めると、学生の数以上の教授陣が在籍されているという、非常に贅沢な環境です。またそれぞれの先生との距離感が近いというのも特徴であると思います。

講義は少人数で行われるため、きめ細かい指導を受けることができ、バックグラウンドの知識に乏しい講義であっても、基礎から知識を積み上げていくことができます。また、それらの講義全てが繋がりを持って設置されているため、“あの授業で学んだ統計手法をこの授業の投資戦略の構築に使ってみてはどうか”といったように、知識の引き出しの数が着実に増えていることを実感します。まさに“体系的に学ぶ”ということの意義がそこにはありました。

## >>>これから入学を検討している方へメッセージをお願いします。

学部卒生として入学した私にとって、金融の第一線で活躍しておられる実務家の方々と切磋琢磨し合えるこの環境は、とても刺激的なものとなっています。実務家の方だけでなく、学部卒生にとっても、通常の大学院とは一味違うこのプログラムでの2年間は、自分を大きく成長させ、将来の可能性を広げるものになると思います。

# 金融工学研究センター

Research Center for Quantitative Finance



内山 朋規

東京立大学大学院 経営学研究科 教授  
金融工学研究センター長

**金** 融工学研究センターは、国際金融都市・東京の発展に向けて、学術的な最先端の研究拠点となることを目指し、金融ビジネスの中心地である東京丸の内地区において2015年に設立されました。学术界と実務界の国際的な連携を通じて、ファイナンス・金融工学の研究の発展を図ってゆきます。

当研究センターの第一の目的は、「最先端の研究」です。高度な金融実務の実践的課題を解決するため、ファイナンス・金融工学における最先端研究を実施します。金融機能の集積は東京の強みです。東京が国際金融センターとしての地位を向上させることは、経済全体の持続的成長を長期的に維持・発展させるための重要な成長戦略です。そのためには、ファイナンス・金融工学の学術的発展が必要不可欠であり、金融経済学、数理ファイナンス、金融計量経済学、データサイエンス、情報技術などの分野において国内外の第一線で活躍する研究者や専門家と連携し、研究を推進します。

第二の目的は「実務との連携」です。金融・資本市場は日進月歩であると同時に、実務と研究の距離が近いという特徴があります。実際に海外の国際金融都市では、実務界と学术界の交流が人的な移動も含めて盛んで、実務的な諸問題が学術研究の対象になり、学術研究の成果が即座に実務に応用されています。当研究センターでは、国内外の大学・研究機関だけでなく、金融機関や公的機関、業界団体や各協会とも連携して、研究を推進します。加えて、シンポジウム、セミナー、国際ワークショップ、研究会の開催を通じて、研究成果を広く社会に還元するとともに、実務家と研究者の交流の場を形成します。

第三の目的は「教育への貢献」です。当研究センターは、大学院教育における高度金融専門人材の養成や次世代のファイナンス・金融工学を担う研究者の育成の拠点としても積極的な役割を果たしていきます。具体的には、国内外の優れた研究者を招き、共同研究だけではなく、大学院生への講義を提供しています。また、当研究センターが開催するセミナーや研究会での発表を通じて、センター所属の多数の教員が指導することにより、学位論文の研究を促進します。



URL <https://www.biz.tmu.ac.jp/quantitative-finance/>

経営学プログラム(MBAプログラム)は2003年に設置されました(当時は東京都立大学大学院の高度専門職業人養成プログラム)。以来15年以上にわたって、ビジネス環境を分析し経営戦略を立案する能力、組織や制度を設計し変革する能力、そしてビジョンと高い志を兼ね備えて果敢な意思決定ができるビジネスパーソンを養成してきました。プログラムの大きな特徴は、第一線の研究者でもある専任教員を中心にした高度な少人数教育にあります。単なるノウハウを教えるのではなく、最先端の研究成果をも踏まえたマネジメントの本質に迫る授業がおこなわれています。提供されている主な科目は「経営学」「経営組織」「ヒューマン・リソース・マネジメント」「意思決定」「経営戦略」「経営戦略演習」「テクノロジー・マネジメント」「ベンチャービジネス」「マーケティング・マネジメント」「マーケティング・サイエンス」「マネジメント・サイエンスI」「統計学基礎」「経営分析」「管理会計」「財務会計」などです。経営組織、経営戦略、マーケティング、経営科学、会計学の分野を中心に多彩な科目が提供されています。修了生は民間企業や行政組織など各方面で活躍しており、大学の研究者になった人もいます。

# MBA Master of Business Administration Program

— 経営学プログラム —

# MEc Master of Economics Program

— 経済学プログラム —

MFプログラムと同じく経営学研究科に設置された経済学プログラム(MEc)は、教養の経済学ではなく、その先の大学院レベルの経済学を学び専門性を身に着けたいというニーズに応える博士前期課程(修士課程)のプログラムです。入学者は、近代経済学を専門とする経済学プロジェクトか、歴史からの分析を専門とする経済史プロジェクトのどちらかに所属します。コア科目と応用科目の履修、特別演習と修士論文の作成などを通じて、学術論文の理解、経済モデルの作成、データ分析、経済社会の事実の再検討などができる力を養います。スタッフの多くは、これまで学術研究に携わり経済学や関連する分野の国際学術誌に論文を発表してきた研究者で、これらのスタッフが少人数教育による丁寧な指導を行っています。

MFプログラムやMBAプログラムと同じ丸の内サテライトキャンパスで、平日の夜間ならびに土曜日に授業を行います。履修については相互に乗り入れがあり、MFプログラムの院生も科目を履修することができます。

詳細については、必ず公式の学生募集要項でご確認ください。

### 募集定員

10名程度：高度なファイナンス業務に関わる実務家、学部卒業生等

### 選抜方法

選抜は9月と2月に実施予定。提出された書類（研究計画書、志望理由書、自己申告書など）と本研究科で実施する学力試験（口頭試問）の結果により総合的に判断して決定します。

### 納付金等（予定額）

入 学 料：東京都の住民…………… 141,000 円  
          その他の者…………… 282,000 円  
授業料（年額）…………… 520,800 円



アクセス  
マップ



### 丸の内サテライトキャンパス

東京都千代田区丸の内 1-4-1  
丸の内永楽ビルディング18階  
TEL. 03-6268-0521

本プログラムの主な授業が開講される丸の内サテライトキャンパスが設置されている丸の内永楽ビルディング18階の賃借契約期間は2021年3月末までとなっていますが、本研究科としましては、2021年4月以降も同ビルディングにて本研究科の授業を継続できるように関係部署と協議を行っています。（2021年4月からキャンパスが移転される可能性が排除されていないことをお含みおきください。）

\* 入試関係のお問い合わせ先

東京都立大学管理部 経済経営学部教務係 大学院担当

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

TEL.042-677-1111 (内線 1715、1716)

入試関連等の情報は、ホームページにて随時更新して参ります。

<https://www.biz.tmu.ac.jp>

スマートフォン・タブレット  
の方はコチラから

